

農業復興へ営農用水確保など5つの柱 十勝組合長会が農水相へ緊急要請

8月の台風上陸、接近による農業被害を受け、十勝地区農協組合長会（有塚利宣会長）は、国などへの要望事項を盛り込んだ緊急要請書をまとめた。酪農・畜産の水確保、農畜産物の輸送手段確保など5つの柱で構成。14日に被害調査に来勝した山本有二農林水産相に手渡した。



山本農水相（右）に緊急要請書を手渡す有塚会長

<組合長会緊急要請書の柱>

- ① 激甚災害の指定と災害復旧の実施
- ② 酪農・畜産の経営継続に向けた緊急的対応の実施
- ③ 農畜産物の輸送手段の確保
- ④ 被災した生産者の減収対策・経営安定対策の検討
- ⑤ 将来に向けた基盤整備対策の検討

緊急要請では台風被害で被災した農家に「不安の解消や経営再建に向けた希望の光が必要」として国の支援を求めた。酪農・畜産農家では、家畜の飲用水などに使う営農用水が断水して死活問題になっている。ホクレンな

どの手配によりローリータンクで給水しているが、断水は長期になる見通しのため、「安定的な水の確保」を要望した。

国道274号やJR根室線・石勝線の寸断で、十勝から本州方面に農畜産物を送る貨物輸送量が落ちていることから「流通手段の確保と経費削減」に支援が必要とした。大雨や強風の被害は多くの作物にわたっており、減収や資金繰りなど経営対策を要望した。

管内では河川の堤防決壊、氾濫などによって500ヘクタールを超える農地が流失、浸水した。河川の抜本的な防止対策を求め、畑の透水性や排水性を高めるための明きよ、暗きよの整備や農地の基盤整備を継続的に行う必要性を訴えた。

14日に帯広、芽室、清水、本別で被害状況を見て回った山本農水相には、各地でJA幹部や農業者らが対策を求めた。

山本農水相は「農地と川を一緒に直していかなければならない。各省庁が連携し、抜本的な対策が取れるように努めたい」と述べた。同行した荒川裕生道副知事も「道が前面に出て（縦割り行政の）横串を刺す形で進めたい」と応じた。

帯広市の大正農業者トレーニングセンターで開かれた意見交換会で、有塚会長は「生産現場は互いに助け合い農業を前進させるので特段の配慮をお願いしたい」と語り、要請書を山本農水相へ手渡した。

日罐十勝工場が操業停止 コーン2000ヘクタール 行き場失う

2016年9月22日

【芽室】台風10号で浸水した日本罐詰（日罐）十勝工場（芽室町）の今季操業停止に伴い、契約農家のスイートコーンが行き場を失っている。国産コーン缶詰のシェア75%を占める同社は、管内を中心に農家約800戸と契約するが、今季の操業序盤で工場が壊滅的な被害に遭った。加工用は生食や飼料に転用できず、農家はやるせない思いで畑を見つめている。

転用もできず

「一つも収穫せずに廃耕するのは、どの作物でも経験がない。怒りはないが、この気持ちをどこにやればいいのか…。町坂の上の農家川合拓男さん（40）は静かに話す。川合さんは約1.5ヘクタールの畑で育て、契約する同社に全量を出荷している。今年是一本も出荷しないうちに工場が被災、畑には収穫適期を過ぎたスイートコーンが残されている。

同社はスイートコーン生産日本一の芽室町に位置し、管内を中心に農家約800戸、約2500ヘクタールと契約している。昨年の製造量は年間90万箱（1箱24缶入り）で、国産缶詰のシェアは75%を占める。しかし、近くの芽室川の水が敷地や工場に浸水し、8月31日から操業停止に。今年は生育が遅れていたこともあり、全体の2割しか製造していなかった。

工場隣には別のコーン加工会社があるが、品種が違い受け入れは困難。同じ品種を使う中小の加工メーカーは